

# 12がときひがの子

校長だより  
令和元年  
12月13日  
第30号

## 常東ランド清掃

12月6日に第33回常東ランド清掃をしました。常東ランドは、創立100周年記念で、平成13年11月に完成しました。当時、「みんなの冒険世界」として、自然に親しみ学んでほしいという地域の方々の願いと努力で作られました。5年前の平成27年2月20日、保護者や地域のご尽力で「どんぐりハウス」(ツリーハウス)が完成しました。ツリーハウスには、①平成26年時、51名の児童の似顔絵②常東学区に生息する生物、③未来の常東学区の想像図、④絵本「きつねのうち」の絵が描かれています。特に、入口には、当時1年生だった今年6年生似顔絵が上手に描かれています。さらに、平成30年2月20日に「森の展望台」が改築されました。子供たちは、学期に一度は、常東ランドを訪れ、自然と親しみ、自然から多くのことを学んでいます。



常東ランド掃除は大成功

子供たちは常東ランドへの感謝の気持ちで、真剣に掃除に取り組みました。掃除の後は、緑化美化委員会企画のゲームで楽しむことができました。

## 山本先生の租税教室

12月5日(木)本校の元教頭先生、前常磐南小学校長の山本信幸先生が今年も6年生の租税教室の講師としてお越しくださいました。今年で3年目となり、税金の種類や使い方について、学習しました。自作のDVD「サラリーマン山本さんの1日」から、「消費税」だけでなく、所得税、住民税、法人税、固定資産税、自動車税、酒税、たばこ税、相続税など50種類もある難しい税金の話がとても楽しく分かりやすく学ぶことができました。



この建物は税金でできたかどうか?

「もし、税金がなくなり、学校に月謝を払うとするといくらかかるでしょうか？」の質問に子供たちは、7万円かかることを聞き、とても驚いていました。中には、「自分は5人兄弟だから毎月35万円も払うの？」と発言する児童もいてとても盛り上がりました。

## 新居町で出前授業

12月8日(日)新居町の公民館で6年児童が、「防災出前発表」の授業を開催しました。中根昭寿総代さん、中根良夫社教委員長さんをはじめ、新居町の皆様のご尽力で実現しました。米河内町・大柳町に続いて今回で3回



児童の説明に耳を傾けて作成

目、子供たちは、最初はぎごちない説明でしたが、次第に慣れてきました。20名ほどの参加者は子供たちの説明を受けて「土砂災害マイタイムライン」づくりに取り組むことができました。新居町の皆様、ご参加くださり、誠にありがとうございます。

9月、子供たちの防災活動を論文にまとめ、「ぼうさい甲子園」に提出しました。その結果、全国118の応募の中から3位の奨励賞を受賞できました。降雨ゲーム、信里小学校とのTV交流、防災アンケート、まちあるきと防災電子マップ、「土砂災害マイタイムライン」の出前講座、防災パンや保存水の販売等を高く評価してくださいました。地域や保護者の皆様には、ご理解ご協力いただき、誠にありがとうございます。

毎 日 新 聞 2019年(令和元年)12月5日(木)

## ぼうさい甲子園奨励賞 岡崎市立常磐東小 愛知工科大・板宮研究室



地域の人に「土砂災害マイタイムライン」の記入の仕方を説明する児童—常磐東小提供

目。独自に、あらかじめ時系列で整理した防災行動計画「土砂災害マイタイムライン」を作成した。また同じように防災教育に取り組む長野県の小学校とテレビ防災会議を行うなど、多様な取り組みが評価された。近藤嗣郎校長は活動について「子どもの成長につながるだけでなく、地域の防災活動への積極的な参画を生み出している」と話す。

優れた防災教育を顕彰する今年度の「ぼうさい甲子園」(17防災未来賞)毎日新聞社など主催で、県内からは岡崎市立常磐東小と愛知工科大・板宮研究室が奨励賞に選ばれた。また、数年にわたり継続的に実施された取り組みを対象とした「継続こそ力賞」に名古屋高・減災チームが選ばれた。【岡崎大輔】

**継続こそ力賞 名古屋高**

常磐東小は、学区で「に建つ家が多く、台風高齡化と過疎化が進行や大雨、地震による危しているうえ山の斜面 険度が高いことに着

### 行動計画を作ろう 土砂災害タイムライン出前発表

約七年前から防災学習に力を入れている岡崎市常磐東小学校の六年六人が、学区内(安

発生に備えた行動計画の作り方を教えている。県は学区内の百七戸、米河内、大柳、新居、小丸町)の高齡者別区域に指定。同校を対象に、土砂災害の備

### 東海愛知新聞

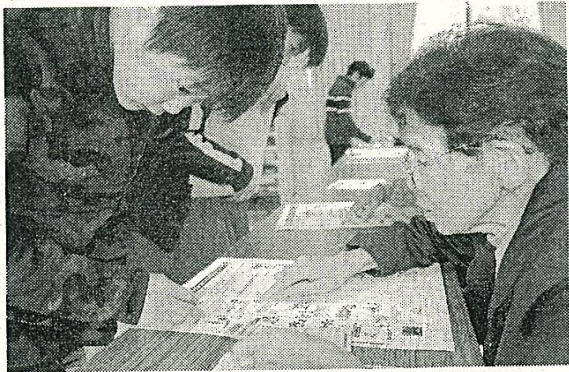
2019年  
12月5日

祝  
ぼうさい甲子園  
奨励賞(全国第三位)

令和元年  
十二月五日

えや避難を計画する国交通省の「マイ・タイムライン」を応用し、土砂災害に特化した「土砂災害マイ・タイムライン」を今年八月に作成した。土砂災害マイ・タイムラインは、「台風が発生して雨が降り出し、土砂災害が発生するまで」を想定した台紙。「学区」「地区」「自宅」が同時系列で縦帯状に記されており、空白になっている自宅の時系列に「避難しやすい服装に着替え」「台風や大雨に備えて買い置きする」「台風や大雨、地震に備えて家を補強する」警報が出たので、子どもを迎えに行く」など書かれたシールを貼っていく。また空欄

になっっているシールに「必要だ」と思う行動を書き込んで貼る。児童は九月に保護者と一緒に土砂災害マイ・タイムライン作成を実践。その体験を「土砂災害発生時に役立ててもらおう」と、五町を回る「出前」発表を企画した。三日は大柳町の高齡者約二十人が集まった同町公民館を訪問。児童は土砂災害マイ・タイムラインを作成した背景を説明し、高齡者は児童に作り方を教えてもらいながらシールを貼っていった。



児童に土砂災害マイ・タイムラインの作り方を教えてもらう高齡者=岡崎市大柳町で